

平成21年12月5日(土)

静岡新聞

UDで快適な社会実現

浜松でシンポジウム



新モデル創出に期待

ユニバーサルデザイン(UD)の啓発イベント「しずおかユニバーサルデザイン」の絆(きずな)in浜松(同実行委員会、浜松市など主催、静岡新聞社、静岡放送)が4日、浜松市中区の静岡文化芸術大で始まり、県内外のUDに取り組む企業や市民らが、UDの活用による「快適な社会」への理解を深めた。5日まで。

「次の世代に今できること」をテーマにしたシンポジウムで、UD総合研究所(東京都)の赤池学所長は、誤飲時の窒息を防ぐためにキャップに通気口を付けたペンなどのUD商品を紹介。「子供目線でものを作る、高齢者や障害者にも優しいものができ、結果的にいろいろなビジネスにつながる」と分析し、「UDのまちである浜松市や静岡県には、ユニバーサルデザインの今後の可能性について意見を交わしたシンポジウム」浜松市中区の静岡文化芸術大

メーカーが社会的弱者と協力し、UDの新しいモデルを示してほしい」と期待した。

浜松市のNPOはままっ子育てネットワークびっぴの原田博子理事長は、インターネットなどを活用したUDの周知策を挙げた。富士宮市の職員は、バリアフリーパス

などを運行する同市の公共交通システムを説明した。

記念講演した評論家の樋口恵子さんは「これからの世界は、急激な少子高齢化を見据えた新たな文明を創造しなくてはならない。教育、労働、介護、医療など各分野で、米国のUD研究者ステイブ・デモス氏は、1990年代以降の日本のUDの発展の歴史を解説した。IAUD(国際ユニバーサルデザイン協会)の会員企業による研究発表も行われた。